

千葉県・千葉市教員等育成指標の6つの柱に対応するキャリアステージごとの目標(栄養教諭)

六つの柱	構成要素	千葉県・千葉市教員等育成指標	ステージⅠ【成長期】 (給食管理、食に関する指導等) 栄養教諭としての自覚と資質能力の向上	ステージⅡ【発展期】 (給食管理、校務分掌主任等のミドルリーダー) ミドルリーダーとしての自覚と資質能力の向上	ステージⅢ【充実に期】 (学校運営等、職員全体及び地域の栄養教諭へ指導・助言) チーム学校をリードする自覚と資質能力の向上
教員に必要な素養	○コンプライアンス ・服務規律の遵守 ・高い倫理観 ○使命感 ○責任感 ○教育的愛情	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教職に対する強い情熱を持っている。また、教育公務員として高い倫理観と不祥事根絶への意識を持ち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。	○コンプライアンスについて理解し、不祥事根絶の意識をもっている。 ○教育公務員としての使命と責任を理解し、情熱と教育的愛情をもって給食管理及び食に関する指導を行っている。 ○教育公務員としてのマナーや適切な言動・態度を心がけ、誠実かつ公正に職務を遂行している。	○不祥事根絶等コンプライアンスを常に意識し、給食管理等で意識を高められるよう発信することができる。 ○教育公務員としての使命と責任を理解し、食育推進の面でリードすることができる。また、計画的・効率的な職務遂行の重要性について、校内で積極的に発信している。 ○教育公務員としてのマナーや適切な言動・態度等について校内で積極的に発信し、教職員間で意識を高めるために率先して行動している。	○定期的にコンプライアンスの意識を固める対策を講じることができる。 ○教育公務員としての使命と責任、法令等に対して豊かな知識と経験を持ち、「チーム学校」をリードする立場として、課題を発見し、進んで改善することができる。 ○教育公務員として使命と責任を自覚し、教職員の規律確保・管理ができる。
	○危機管理能力		○安全な教育環境の整備について、基本的な知識を身に付けている。 ○危機管理マニュアル等に基づき、事象発生時の対応方法について理解している。	○危機管理マニュアル等に基づき、危機を予測して未然防止を図るとともに、事象発生時には連絡・調整役として迅速に行動できる。	○危機管理マニュアル等に基づき、校内の危機管理体制を点検し、事故等の未然防止に向けて周囲に具体的な指示や助言を与えることができる。
	○社会性 ○コミュニケーション能力 ○豊かな人間性	豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や子供、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。	○豊かな人間性や人権意識を持ち、児童生徒、家庭や地域住民等、教職員間で円滑なコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことに努めている。 ○家庭・地域、関係機関との連携の大切さを理解し、給食管理及び食に関する指導等に生かすことができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点を持ち、教育活動を展開することができる。	○児童生徒、家庭、教職員間で円滑なコミュニケーションを取り、自らの意見も効果的に伝えつつ、信頼関係を築くことに努め、家庭・地域、関係機関と連携を進んで行うことができる。 ○コミュニケーション能力を発揮し、教職員の連携を深め、教育課題に対する組織的な対応に貢献することができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点を持ち、教育活動をよりよく展開することができる。	○学校の教育力を高めるために、家庭・地域、関係機関等と連携、協働を円滑に行うことができる。 ○コミュニケーションの機会を重視し、教職員間で常に連携できるような中心となって積極的に取り組み、風通しのよい職場環境づくりに努めることができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点をもつとともに、教職員に指導・助言し、よりよく教育活動を展開することができる。
	○社会の変化への対応 ○広い視野 ○学び続ける意欲	教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けている。	○教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、研修や研究会等に積極的に参加し、自己の資質能力を高めている。 ○校内外の研修会において、主体的に学び、自己の課題を把握・解決することに努めている。 ○自己の指導力を高めるために、教育実践や研究記録を積極的に公開し、他者からの助言を受け改善することができる。	○研修や研究会等で得た情報や知識を、教職員間で共有し、教職員全体の意識が高まるよう努めている。 ○自己の教育実践を振り返り、課題を分析したキャリアプランを立て、今後の教育活動をマネジメントしていくなど自己研鑽に努めている。 ○メンターとしての意識を持ち、経験の浅い教職員の指導・助言等ができる。	○組織マネジメント力や教職員の指導力育成に関することなど、広く学校運営に関わる研修を受講し、恒常的に自己研鑽することができる。 ○自校の自己評価・他者評価から得た課題に対して、国や本市の動向・教育関連施策等、必要な情報を収集・発信し、教職員が一丸となって解決できるよう働きかけている。
	○教職に関する教養	教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。	○教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、専門的な知識・技能の修得や最新の動向に関し情報収集に努めている。	○最新の教育課題を敏感に捉え、専門的な知識・技能を活用しながら、学校体制の中核として組織的に対応することができる。	○教育に関わる最新の動向について常に情報収集し、校内外研修の講師を務めるなど、教職員へ情報提供や共通理解を図ることができる。
専門領域に関する資質能力	教科等における食に関する指導	各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、当該教科の目標や内容を身に付けさせることを第一義的に考え、その過程に食育の視点を位置付け、目標がよりよく達成されるための専門的知識を身に付けている。	○食に関する指導の全体計画を提案し、教職員と連携・調整を図りながら推進している。 ○各教科等の特質や目標を理解し、教職員と連携して食に関する指導を実践している。 ○研修等を通じて、専門的な食に関する指導の技術習得に努め、積極的に学んでいる。	○食に関する指導の全体計画に基づいて体系的・継続的な食に関する指導を推進するとともに、実践したことについて評価、改善をしている。 ○各教科等の特質や目標を踏まえた指導内容や評価を工夫し、専門的な立場から食に関する指導を実践している。 ○校内研究や校外の授業研究会に積極的に参加し、常に栄養教諭としての専門性の向上に努めている。	○食に関する指導に係るカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、学校内や他の栄養教諭等に指導的な役割を果たしている。 ○校内外において、食に関する指導について教職員や他の栄養教諭等に指導・助言している。 ○食に関する課題に対応するため、常に最新の動向について情報を収集し、専門性を高めている。
	給食の時間における食に関する指導	心身の健全な発達に資する学校給食について、子供たちが食事に興味を持ち、食に関する正しい理解と適切な判断力を養うために計画的・継続的な指導を実践している。	○食に関する指導の中核を担っていることを理解し、直接教室等へ出向いたり、教職員が指導できるよう食に関する指導の全体計画に基づいた資料を提供したりしている。 ○食物アレルギーのある児童生徒に対して、安全性を最優先に、管理職や養護教諭、学級担任等と連携しながら給食の対応をしている。	○ゆとりをもって指導できる給食時間の確保に努め、食に関する指導の全体計画に基づいて、学級担任等と連携した指導を実践している。 ○食物アレルギーのある児童生徒に対して、安全性を最優先に給食の対応をするよう、学校全体で連携を図り取り組んでいる。	○食に関する指導の全体計画に基づき、児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力を身に付けさせるための指導について、学校内外で模範となる指導をしている。 ○食物アレルギーのある児童生徒に対して、安全性を最優先に、組織的に給食の対応を行うとともに、常に最新の食物アレルギーに関する専門的知識を得よう努めている。
	個別的な相談指導	栄養学等の専門的知識に基づき、偏食や肥満・痩身、食物アレルギー、運動、食行動の問題など食に関する健康課題を有する子供に対して、関係する教職員や専門職、保護者と連携して個別的な相談指導に取り組んでいる。	○食に関する健康課題のある児童生徒の状況を把握し、教職員や家庭と連携して個に応じた相談・指導の実施に努めている。	○食に関する健康課題のある児童生徒の状況を把握し、教職員や家庭と連携しながら、相談・指導にあたり、必要に応じて関係機関との連絡調整を実施し、適切な対応方針を提案している。	○食に関する健康課題のある児童生徒の状況を把握し、教職員や家庭と連携しながら、相談指導にあたり、必要に応じて関係機関との連絡調整を実施し、適切な対応方針を提案し、教職員を支援しながら対応している。
	栄養管理	学校給食実施基準の内容を正確に理解し、学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立を作成し、食事内容の充実にも努め、適切に栄養管理をするとともに、教職員との連携や家庭への情報発信により、日常又は将来の食生活全体の改善を促している。	○学校給食実施基準について理解した上で、学校給食摂取基準や食品構成、食物アレルギー対応を考慮した献立作成をしている。 ○食事状況調査や残食調査等を通じた適切な栄養管理を実践している。	○児童生徒の成長の特性や地域の実態などに基づいた適切な栄養管理を行い、食事内容の充実にも努め、その評価、改善をしている。 ○教職員と連携し、教科と関連付けた献立等を実践している。	○適切な栄養管理の実施とともに、献立作成等に関して研修会等において、他の栄養教諭等に助言している。 ○児童生徒の行動変容につながるよう、学校全体や地域全体の食生活改善を促す方策を立て実践している。
	衛生管理	学校給食衛生管理基準の内容を正確に理解し、衛生管理責任者として、安全な給食の実施のために、衛生管理に関する共通理解を図るとともに、適切な管理及び指導・助言を行い調理員や教職員等と連携を図っている。	○衛生管理責任者として、学校給食衛生管理基準に基づき、調理従事者の衛生、施設設備の衛生及び食品衛生等について管理、分析、確認し改善に努めている。	○調理従事者の衛生、施設設備の衛生及び食品衛生等について適切に指導し、管理するとともに、そのことについて日常的に評価、改善をしている。	○衛生管理体制について、研修会等で他の栄養教諭等に対する指導・助言している。また、学校給食衛生・調理作業のあり方について、情報提供や助言している。
生徒指導等に関する実践的指導力	子供の発達過程や特徴の理解と信頼関係の構築 教育相談及び生徒指導 個別指導	子供の心身の発達過程や特徴を理解し、子供との信頼関係を構築するとともに、学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を専門的な立場から育成している。教育相談や生徒指導の意義や理論を理解し、子供一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、学校生活への適応や人格の成長への支援をしている。	○千葉県における生徒指導上の課題を把握し、未然防止、早期発見、即時対応に努められるよう、校内で情報共有している。 ○児童生徒の悩みや思いに寄り寄り、共感的に受け止めている。	○生徒指導上の課題等の未然防止、早期発見対応、困難課題対応、再発防止を組織的に推進している。 ○児童生徒の心身の発達過程や特徴を理解して信頼関係を構築し、栄養教諭の立場から個に応じた支援をしている。	○学校全体の指導方針へ栄養教諭の立場から助言し、食に関する状況等について、地域や専門機関と連携する役割を果たしている。
	人権教育の推進 生徒指導上の課題への対応	人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、子供に対し適切に指導している。	○人権教育の理念のもと、いじめ、情報モラル等の生徒指導上の課題と、不登校等の課題に応じた指導方法を理解している。	○人権教育の理念のもと、いじめ、情報モラル等の生徒指導上の課題と、不登校等の課題に応じた指導方法を理解し、解決のため、教職員や家庭、関係機関と連携を図っている。	○人権教育の理念のもと、いじめ、情報モラル等の生徒指導上の課題と、不登校等の課題に応じた指導方法を理解し、解決のため、教職員や家庭、関係機関と連携を図りながら、適切な指導を行っている。
	カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、食に関する指導の教科等横断的な視点を大切にしながら教育課程を実施している。	○カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、食に関する指導の教科等横断的な視点を大切にしながら教育課程を実施している。	○カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、食に関する指導の教科等横断的な視点をもち、組織的かつ計画的に教育課程を実施、改善している。	○食に関する指導に係るカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、学校内や他の栄養教諭等に指導的な役割を果たしている。	
チーム学校を支える資質能力	学校組織マネジメントの意義を理解した上で、学校における食育推進や学校給食管理の中心的な役割を担い、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。	○学校における食育推進や学校給食管理の中心的な役割を担っている。 ○他の教職員と連携・協働しながら、責任をもって積極的に自分の役割を果たすなど、学校運営を支えている。	○他の教職員と連携・協働しながら食育の推進や学校給食管理の中心となることと、校務に積極的に参画し、組織の中で栄養教諭としての役割を果たしている。	○学校組織マネジメントの意義を理解した上で、学校における食育推進や学校給食管理の中心的な役割を担い、学校運営を支えている。	
	家庭や地域、関係機関等との連携・協働	家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間、関係機関との連携・協働に努め、地域とともに食育の推進に取り組んでいる。	○チーム学校の一員として、自分の役割や責任を果たしている。 ○地域との連携事業に参画する等、食育の推進に取り組んでいる。	○チーム学校の一員として、積極的に自分の役割や責任を果たしている。 ○地域との連携事業を立案、実施する等、食育推進の要として積極的に取り組んでいる。	○チーム学校の食育推進の中心となり、専門性を生かした指導を行い、他の教職員の模範となっている。 ○家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努めている。
	研修(研究)体制	研修(研究)の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修(研究)における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。	○研修(研究)を自分の力量を高める機会として捉え、積極的に受講し自己研鑽に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。	○自分の苦手分野や課題に合った研修(研究)を積極的に受講し自己研鑽に励み、バランスよく力量を高めていっている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。	○自分の力量を高めるだけでなく、他の栄養教諭等の力量を高められるよう、積極的に助言し模範となっている。また、栄養教諭としての資質能力の向上を図るために必要な研修(研究)と修養に努めるとともに、積極的に校内研修に参画している。
特別な配慮や支援を必要とする子供の理解 学習上の支援と生活上の支援	特別な配慮や支援を必要とする子供の理解	特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、きめ細かく支援するために、子供一人一人の教育的ニーズや子供の特性、食事の状況を把握している。	○特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性を理解し、個別の健康状態や食に関する状況を把握している。	○他の教職員や家庭と連携し、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の健康状態や食に関する状況を把握している。	○他の教職員や家庭と連携し、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の健康状態や食に関する状況を把握するとともに、校内で共通理解を図り、体制を構築している。
	学習上の支援と生活上の支援	保護者や他の教職員、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする子供の教育課程の編成について適切に対応し、誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現を図っている。また、状況に応じた生活上の支援を工夫している。	○特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の食事の状況について適切に対応している。	○特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の食事の状況について適切に対応するとともに、他の教職員や家庭と連携しながら生活上の支援を工夫している。	○特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の食事の状況について適切に対応するとともに、生活上の支援を工夫している。また、他の教職員に対して助言や情報提供を行っている。
	ICT活用	学校におけるICT活用を効果的に活用するとともに、子供の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための取組を実践している。	○情報モラル(内容や必要性等)について理解し、常に意識しながら自身の情報活用能力やデータリテラシーの向上を図っている。 ○ICT活用の意義を理解し、授業のねらいを意識しながら、食に関する指導においてICTを効果的に活用し、指導力の向上に努めている。	○情報モラル(内容や必要性等)について理解し、教職員と常に連携しながら情報活用能力やデータリテラシーの向上を図っている。 ○各教科等の特質や学習内容に応じて、ICTを効果的に活用し、教職員と連携して児童生徒の実態に即した食に関する指導を展開している。	○情報モラル(内容や必要性等)の醸成と情報活用能力やデータリテラシーの向上に向けて、各教職員の必要性に応じた具体的な助言をしている。 ○食に関する指導におけるICTの効果的な活用について、教職員や他の栄養教諭等に対し指導・助言をしている。
ICTによる校務効率化	ICTが学校教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育や学校給食の管理に係るデータの蓄積・分析・利活用等を通して、校務の効率化を進めている。	○学校教育を支える基本的なツールとしてのICTを理解し、校務の効率化に向けたICTの活用を図っている。	○校務の効率化に向けICTを活用して、給食管理を効率的に行えるツール等を提案している。	○校務の効率化に向け、ICT機器の利用促進や充実に努め、給食管理を行うツール等の活用方法や改善点について助言している。	